



今日から1年生 みんな元気ですか (斗賀野小学校)

さかわ

Sakawa

50
2012.5.1

議会だより

発行 高知県佐川町議会

3月定例会

contents

目次

第二グラウンド整備、一部凍結 2

斗賀野地区町営住宅用地取得へ 7

戸別受信機、全戸に設置を(一般質問) 17

四ツ白地区に生活用水を(あの質問のゆくえ) 19



佐川・酒蔵ロードのひなまつり



24年度一般会計予算に

修正動議

旧佐中グラウンド整備に 異論

佐川町民第二グラウンド（旧佐中グラウンド）の整備事業費の内、グラウンド拡張に伴う河川の改修、ネットの整備について、議案質疑の中で、松浦議員より見直すべきとの意見が出されました。

これに対して町長は「この予算については、執行停止にした上で、再度議会の理解を得られるよう努力したい」との答弁を行い、事実上、凍結されました。

そのあと、この予算を減額修正する修正動議が出され、採決の結果、賛成6、反対7により否決されました。

引き続き、原案が賛成7、反対6で可決されました。

〈修正案提出者〉松本、坂本、嶋崎、今橋、中村、森

3月定例会は、6日より9日までの会期で開かれました。平成24年度一般会計予算をはじめ平成23年度補正予算、条例の制定や改正などが上程され、議案34件、報告5件、議員発議による意見書4件を審議し、全員賛成及び賛成多数で全件可決しました。

一般質問には8人の議員が登壇し、町政全般について、活発な論戦を展開しました。

平成24年度の一般会計予算は約61億4967万円、前年に比べて4億3851万円の減です。前年度からの減少率は6.7%となり、佐川中学校建設事業が完了した、21年度予算に続く減少率となっています。

予算編成の重点項目は、23年度の子育て支援、協働推進事業、防災対策に、24年度より新エネルギー対策事業が加えられました。

前年度に引き続き、緊縮型の厳しい予算編成となっています。

歳入 入るお金

(町民自身で賄うお金)

24年度の自主財源(町民自身で賄う町の運営費)は約17億5292万円。内訳は町民税や固定資産税などの町税が昨年より微増の約10億2042万円。その他、施設の使用料や窓口手数料、財産収入などを含めたものです。

(国・県からの補助金)
地方交付税(国税の中から地方に配分されるもの)は微増の26億207

歳出 出るお金

0万円。国庫支出金(国と協力して行う事業や教育などの財源として国からくるお金)は1088万円減の5億1098万円となっています。

人件費は昨年より微減の8億9937万円。普通建設費は黒岩中耐震補強設計、飲料水供給施設整備補助事業、歴史まちづくり整備事業等、5億8853万円となっています。

一般会計予算

平成24年度

61億4,967万円

平成24年度一般会計予算(原案)は
賛成7、反対6で可決

一般会計予算とは・・・佐川町の福祉・教育・防災対策など、住民サービスを行い、町政運営に必要な大事な予算です。年度初めの一般会計予算は当初予算と呼ばれ、1年間の町の運営が賄われます。

【賛成議員】

片岡 勝一、松浦 隆起、岡村 統正、西村 清勇、氏原 義幸、徳弘 初男、藤原 健祐

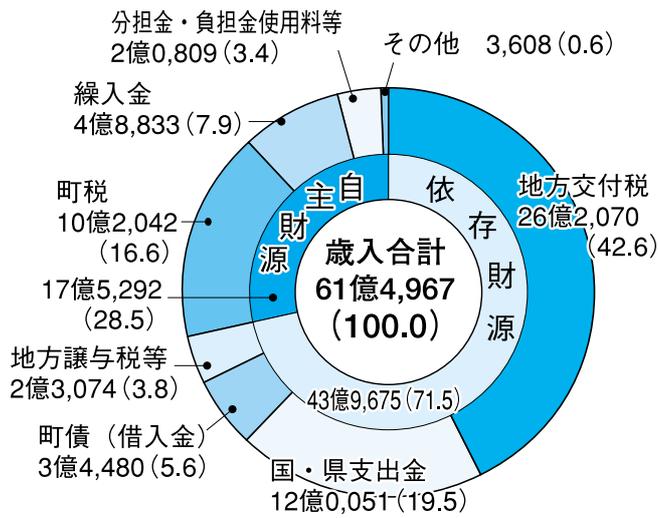
【反対議員】

森 正彦、坂本 貞雄、中村 卓司、松本 正人、今橋 寿子、嶋崎 正彦

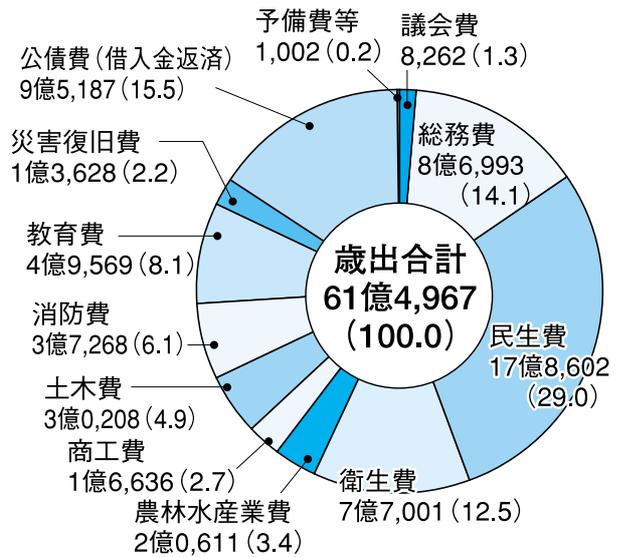
24年度予算

総額 127億5821万円

単位：万円 (%)



24年度 一般会計予算



平成24年度各会計当初予算

会計名	本年度予算総額	前年度予算総額	比較増減	
一般会計	61億4,967	65億8,818	△4億3,851	
特別会計	国民健康保険	17億1,246	17億8,013	△6,767
	住宅新築資金等貸付事業	474	789	△315
	学校給食	5,412	5,512	△100
	農業集落排水事業	2,460	2,517	△57
	特定環境保全公共下水道事業	533	614	△81
	介護保険	15億8,875	15億8,796	79
	後期高齢者医療	2億0,879	1億9,440	1,439
	水道事業	3億1,672	2億8,486	3,186
	病院事業	34億8,768	21億8,203	13億0,565
総計	135億5,286	127億1,188	8億4,098	
重複額	7億9,465	7億5,462	4,003	
全会計純計	127億5,821	119億5,726	8億0,095	

(単位：万円)

※水道事業および病院事業会計の予算額は (収益的支出額+資本的支出額) を計上

報告案件

工事請負契約の変更

佐川町民第二グラウンド

整備工事

597万3450円の増額

駐車場部分や体育館跡などの土質が悪かったことから、舗装構成の変更や土の入れ替えを実施。
また、対岸に簡易の観覧席を追加施工したことによる増額。

町道川ノ内線

道路災害復旧工事

346万650円の減額

仮設道路計画の見直し、現地再測量により、構造物取り壊しの減による減額と、法面対策工を追加したことによる増額。

条例改正

体育指導委員が

スポーツ推進委員に

名称変更

体育指導委員をスポーツ推進委員に名称変更する。また、社会教育指導員、教育相談員の月額報酬を4100円増額する。

(4月1日施行)

(賛成・全員)

牧野富太郎博士

顕彰基金を設置

牧野富太郎博士の生誕地として、永くその遺徳をしのび、顕彰していくために設置するもの。

(4月24日施行)

(賛成・全員)

3月定例会で決まりました



佐川町が誇る、世界の偉人

介護保険料

年・4,500円～13,400円の増額

介護保険事業計画の見直しにより、第1号被保険者の保険料を変更するもので、それぞれの区分に応じて、年額4500円から1万3400円の増額となる。

(4月1日施行)

(賛成・全員)

退職所得の10%の税額控除廃止

退職所得に係る個人町民税の10%税額控除廃止が、平成25年1月1日以降に支払われるべき退職手当等から適用される。

また、平成26年度から35年度まで、個人町民税均等割額に500円加算される。

高吾北広域町村事務組合規約の変更

たばこ税の県、市町村の課税割合が変更され、町たばこ税が増加するもの。

(4月1日施行)

(賛成12・反対1)

高吾北広域ふるさと市町村圏基金の3町の出資額の一部を消防本部庁舎整備事業に使用するために、規約の変更をするもの。

(賛成・全員)

指定管理者の指定

管理を行わせる施設	管理を行う団体
四ツ白太刀踊保存伝承館	四ツ白部落
佐川町民プール・テニスコート	(有) 尾崎建設
尾川地区住民センター	山田部落
小富士集会所	荷稻・青去部落
ふれあいセンターけいとう	西山組部落
斗賀野老人憩いの家	斗賀野老人クラブ
尾川老人憩いの家	尾川老人クラブ
黒岩老人憩いの家	黒岩長寿会

この事業に **注目**

防災対策



この子らの笑顔、守るために

町内の保育所の耐震化に向けて、私立保育所の耐震補強設計補助金として368万円、公立保育所耐震診断委託に230万円。

防災行政無線が聞こえにくい、難聴世帯への対策として、戸別受信機を今年度200世帯設置する。今後5年間で1000世帯に設置。

保育所耐震化事業

私立保育所耐震補強設計補助金
公立保育所耐震診断委託
(昨年の子ども議会において
中学校生徒からも提案)

598万円

防災行政無線 難聴世帯対策

戸別受信機を200世帯に設置

1,300万円

牧野博士顕彰事業



花と恋して… 一年を通して顕彰

牧野博士生誕 150年記念事業

(23年度補正分含む)

2,729万円

記念事業の一つとして、牧野博士を顕彰する企画立案を出した住民で構成する団体、公的団体に50万円を限度に補助する。

青山文庫企画展 (広井勇展含む)

「日本植物学の父・牧野富太郎」などを企画

305万円

青山文庫において、牧野富太郎博士生誕150年を記念した特別展示などを行う。併わせて同じく生誕150年を迎える「港湾工学の父」と呼ばれた土木工学者の広井勇博士の企画展も行う。

24年度 議会は

インフラ整備



地域の声が届き、斗賀野地区の活性化へ一歩前進

斗賀野地区に町営住宅を建設するための用地を購入するもの。

斗賀野町営住宅 用地購入費

町民から希望が多かった
斗賀野地区へ建設を予定

1,939万円

飲料水供給施設の西山地区への工事費と四ツ白地区への設計費。

飲料水 供給施設整備

四ツ白地区に
飲料水供給施設を設計

6,300万円

太陽光発電システムを新たに設置する場合、1kwあたり10万円を補助するもの。(上限40万円で30戸を予定)

住宅用太陽光発電 システム補助

新エネルギー等活用事業を
重点項目に

1,000万円

環境対策

産業振興



観光行政の起爆剤になれるか、上町

佐川町歴史的風致維持向上計画に基づき、街並み環境整備として、浜口邸の改修工事や牧野富太郎博士の生家再生工事を行うもの。

歴史まちづくり 整備事業

牧野富太郎博士の生家を再生

1億669万円

上町を中心とした観光行政を軌道に乗せるため、佐川町観光協会の設置を目指すもの。

佐川町観光協会(仮) 発足準備事業

上町を中心とした観光行政が本格始動

760万円

4億1,321万円の減



平成24年度3月補正予算

(単位：万円)

会計名	補正額	補正後の額	
一般会計	△4億1,321	62億8,446	
特別会計	国民健康保険	5,160	17億4,793
	介護保険	2,545	15億9,866
	後期高齢者医療	14	1億9,678
	病院事業	△3億5,010	18億3,493



耐震化工事が始まる尾川小・中学校

西山地区飲料水供給施設の整備に係る県補助金の確保ができなかったことによる減。なお、24年度に県に再申請の予定。

飲料水供給施設 整備事業

西山地区飲料水供給施設の整備
24年度に再申請

△4,082万円

学校耐震化事業

尾川小・中学校の
耐震化工事を前倒し

2億1,575万円

国の第3次補正予算で措置される緊急防災・減災事業を活用し、尾川小・中学校の耐震補強・大規模改造工事を24年度より前倒しして、行うもの。

農林水産業施設、公共土木施設の災害件数が、当初見込みより少なかったことによる減。

災害復旧事業

農林水産業施設、公共土木施設の
災害査定工事費が確定

△5,044万円

国の用地を取得する必要が生じ、都市計画法による、開発許可申請の変更などに時間を要するため、23年度の造成工事を行えなかったことによる減。

霧生関公園 (仮称) 建設事業

23年度の造成工事を行わず減額

△3億9,481万円



災害復旧工事が行われた町道川ノ内線

第二グラウンド 整備、見直すべきだ

松浦議員 町民第二グラウンドの整備工事は、しっかりと計画を立てて、今後の社会体育施設となるよう再度検討する必要がある。御土居川の河川工事と防球ネット工事の予算についてはいったん見直すべきだ。

議案質疑

提出議案に対して、各議員から出された質問の主なものを紹介します。



社会体育施設として、今後の活用が期待される

榎並谷町長 予算には計上させていただいている

が、議会の皆さんは町民の方の代表であり、ご意見は当然、踏まえなければならぬ。ご理解を頂くまでは、予算は執行せず、時間をかけて中身を検討する。予算は一時凍結をし、議会の理解を得た後に執行したい。

へりポートの 予算計上、なぜか

松本議員 仮称霧生関公園にへりポート建設の予算が800万円組まれている。しかし、霧生関公園全体の建設の予算は、建設の認可が下りていないとの理由で、本予算に計上されていない。それに対して、へりポートだけ予算計上しているのはなぜか。

榎並谷町長 へりポートは霧生関公園全体とは別の予算であり、県のへりポート用の補助金を活用するよう、昨年から取り組んでいる。開発許可の変更申請ができれば、別途にへりポートだけの施工も可能との判断と、県の予算を確保する目的から予算計上をしている。慎重に対応しなければならぬが、早く取り組みたいという思いだ。

扶助費増加の 原因は

森議員 本町は、扶助費の割合が、他の町村に比べて群を抜いている。担当課では扶助費の増加が課題となっており、抑制するシステム構築が必要との認識を持っている。扶助費の抑制は地域全体にとってもいいことだ。増加の原因をどのように把握しているのか。また、具体的な対処法があるのか。

下川健康福祉課長 23年度における扶助費の占める割合は、14・2%と県内の町村では高い部類に位置しており、24年度も高い位置を占めている。扶助費増加の原因は、少子高齢化や産業構造の変化などにより家庭や地域の力が後退したことなどが要因の一つと考えられる。住民の皆さんと協働しながら問題を解決することが有力な方法と考えており、住民力を高める方法として、地域の拠点づくりを実行していきたい。

扶助費って？

社会保障制度の一環として生活困窮者の最低限の生活維持を図る目的で支出される経費。

本町では国の法に基づくものとして、障害福祉サービス費、ひとり親家庭医療費など。町単独施策として、乳幼児児童医療費などがある。

意見書

国にもの申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

一次産業の 再生・振興を 求める意見書

(提出者 岡村統正)

国においては、国内の農業や森林を守り、国土と食糧を盤石なものとするため、減反政策を見直して、食料自給率を大幅に引き上げ、食料主権を確立すること。人工林の間伐促進を含めた計画的森林整備と連動した建材、木工、バイオマスエネルギーの産業化を早急に推進することなどを強く要望する。

(要旨)
(賛成・全員)



いつまでも残したい田園風景

四国地方整備局及び各事務所の存続を求める意見書

(提出者 岡村統正)

今、国に求められていることは、防災対策などで地方自治体と連携し、住民の生命を守り、安心・安全を確保する責任と役割を発揮することだ。大規模な自然災害に対する国としての行政責任を果たすため、四国地方整備局及びその事務所、出張所の廃止や地方移譲は行わないこと、防災関連事業予算の確保・拡充を図ることなどを強く要望する。

(要旨)
(賛成・全員)

障害者の権利を保障する新たな総合福祉法の制定を求める意見書

(提出者 坂本貞夫)

障害者が自ら選んだ地域において、個々の状況に応じて自立生活を送り、社会活動に参加できる社会の実現のためには、障害者が自らの選択により、必要な支援が利用できることが必要だ。

障害者総合福祉法(仮称)制定にあたり「総合福祉部会の提言」に基づき制定し、障害者の自立した地域生活が可能となる、質的・量的に充実した障害福祉施策の提供体制を確立することを要請する。

(要旨)
(賛成・全員)

子ども・子育て新システムによる保育制度改革に反対し、現行制度の拡充を求める意見書

(提出者 松本正人)

国及び市町村の公的保育責任を後退させる「子ども・子育て新システム

」に基づく保育制度改革ではなく、すべての子どもの健やかな育ちを保障するために、児童福祉法第2条、24条に基づく現行保育制度を堅持・拡充することを強く要望する。

(要旨)
(賛成・全員)

一律カット、そぐわない

町長 やむを得ない

24年度予算編成は、一般財源ベースで各課一律5・57%カットの枠配分が行われている。町づくりを考えたとき、各課に強弱があつて、当然であり、一律カットの方法は予算編成作業にはそぐわない。

松浦 隆起 議員



8人が町政を問う

ここが聞きたい



避難所運営ゲーム HUG

防災対策

避難所運営ゲーム 活用すべきだ

総務課長 活用できるか検討したい

東日本大震災以降、自治体で注目を集めている避難所運営ゲーム「HUG」。これは、迅速な対応が求められる避難所運営を図面とカードを使って模擬体験するゲームだ。避難所に指定されている学校などの実際の図面を用いて、何度も訓練を行えば、災害時に生き残る。活用すべきだ。
岡林総務課長 疑似体験を通じて、迅速で公平な判断力、優先順位など、被災者を思いやる力が培养されると認識している。まずは一式購入し、広く活用できるものであるか、検討したい。

少子化対策

不妊症への助成すべきだ

健康福祉課長 状況を把握し、検討したい

不妊症は、不妊症と異なり、妊娠はするけれども流産や死産を2回以上繰り返して、結果として子どもが持てないというものだ。適正な治療を行えば85%の患者が出産を迎えられると言われているが、保険適用外が多い。治療費への助成を行うべきだ。
下川健康福祉課長 今後助成的な部分を勘案しながら、状況を十分に把握し、検討を進めたい。



子どもは地域の宝

その後の経過は

産業建設課長 廃止に向け、国、県と協議



有効利用が求められる下水道最終処分場予定地

下水道最終処分場予定地の今後の利用方法について、21年12月定例会において、質問した。
「皆さんと協議しなければならぬ」との答弁であったが、その後の経過は、
住民から意見を募り、有効利用するべきだ。

片岡 勝一 議員



渡辺産業建設課長 特定環境保全公共下水道事業は休止状態であったが、1月27日の高知県公共事業再評価委員会において事業廃止の決定を頂いた。
今後は国、県との廃止に向けての協議など、状況を見極めながら、どのように有効利用を図るのか検討していく。
現状では、町民から意見を募る段階ではまだない。

鷹ノ巣養豚団地跡地

自然林の森にするべきだ

産業建設課長 有効活用考える

鷹ノ巣養豚団地跡地は、山林の中でも平たん地であり、旧国道に隣接したウォーキングコースとして公園化すれば、野鳥が集まり水源かん養保全林となる。自然林の茂る森とするべきだ。

渡辺産業建設課長 養豚団地跡地は、さまざまな提案がされ検討してきたが、現状は白紙の状態だ。
今のままでも自然の山に戻っていく状況であり、提案も一つの方策である。町民の資産であり、有効に活用するよう考える必要がある。

受け入れるべきでない

町長 慎重に取り組む

自治体に震災がれきの受け入れ協力の要請があったはずだが、簡単に受け入れるべきではない。もし、汚染がれきが混入して災害が起き、河川、海へ流れ出すと、不毛の地となりかねない。被災地への支援策は他にもあり、汚染物質を含んだがれきは受け入れるべきではない。



自然林の森に帰すべきか 鷹ノ巣養豚団地跡地

榎並谷町長 基本的に、直接、受け入れ要請はない。この件は大変重要な問題であり、一自治体がお金で受け入れるということにはならない。ただ、日本人同士助け合わなければならず、国全体として取り組む必要がある。今、要請があれば、慎重に取り組まなければならない問題と認識している。



森 正彦 議員

政治情勢や社会情勢は変動している、その変化への対応は大変重要である。その中で佐川町政を町民のためにどう進めていくのか。24年度予算の概要はどうか。

24年度予算

予算の概要は

町長 観光振興に多額の予算

榎並谷町長 24年度予算編成方針は将来に向けて、地域振興につながるような編成を行った。

具体的には、観光振興として、上町の歴史まちづくりの整備に多額の予算を計上している。

農業振興では後継者育成、環境整備に一つ一つは金額が少ないが、継続的に進める。

霧生関公園、旧佐川中グラウンドは将来多額の維持経費をかけずに、有効に利用していただくことを基本に考えている。



地域福祉の拠点となれるか

あったかふれあいセンター

コーディネーターが大事

健康福祉課長 事業所で人選

あったかふれあいセンターひまわりは高知型福祉の中核事業として始まった。本町においての位置づけと、福祉の拠点としての内容は、

地域福祉の拠点としてレベルの高いモデルとなるよう、町も指導すべきであり、リードするコーディネーターが大事であるが、協議はできている。

下川健康福祉課長 本町の地域福祉の最先端的な役割を担っている。具体的には、行政と支援を必要とする人の中間に位置づけている。今後の活動として、地域のニーズ、課題に対応して支援する新たな支え合いの仕組みづくりが重要だ。コーディネーターの人選は事業所の方で進めている。

防災対策

災害対策の重点は

町長 自主防災組織の早期設立

東日本大震災が起きて最初の予算編成となるが、本町の災害対策の重点と優先順位をどう考えているか。



災害への備え、重要

榎並谷町長 自分の命は自分で守るというのが基本姿勢と考える。その意味から自主防災組織を未設置の地域で早急に設立することで、住民の意識が高まると考える。

また、避難訓練も形骸化しないよう、真剣に取り組む必要があり、災害に対して、被害に遭わないよう、まさかのときには被害が少ないような状態にもっていくのが行政の責任と考えている。

その他の質問
○ 23年度の職員教育の実績と、今年の計画は。

また、知的財産権保護強化により、安価なジェネリック医薬品の供給が止まると、高北病院にどのような影響があるか。

環太平洋経済連携協定

医療分野への影響は

病院事務局長 皆保険制度の崩壊、懸念

坂本 貞雄 議員



国民皆保険制度を守るのは政治の責任

笹岡病院事務局長 混合診療が解禁され、保険外診療の自己負担が一般化すれば、患者の経済力により医療格差が生じ、国民皆保険制度の崩壊が懸念される。

高北病院では、現在、ジェネリック医薬品は22・2%を占めており、これがとまると日々の診療に支障をきたすことになる。

介護保険

保険料、いくらになるか

健康福祉課長 保険料は5083円

介護保険事業計画が制定されている。24年度から26年度の介護保険料はいくらになるか。また、どのような手順を踏んで決められたか。

下川健康福祉課長 国の示す推計方法により算出した3年間の給付費の推計額から調整交付金、運営基金の活用、収納率を考慮し、介護保険料を決定した。

保険料は5083円となり、前期より実質750円の増加となる。

太陽光発電システム設置事業

助成の条件は

産業建設課長 国の補助制度受けたもの

東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、原発に未来はなく、自然再生エネルギーが急速に注目を集めている。

家庭用太陽光発電施設への助成制度を歓迎したい。1kw当たり10万円の補助があり、40万円が上限と聞いた。助成の条件はどういった内容か。

渡辺産業建設課長 町単独事業として、24年度予算に、総額1000万円計上している。

助成の条件は、国の補助制度の決定通知を受けて、住宅に太陽光のシステムを設置するか、設置された住宅を購入する個人とする。

その他の質問
○ 国家公務員給与の引き下げ、本町への影響は。



普及し始めた太陽光発電システム



中村 卓司 議員

今年の予算の特色を町長はどのように考えるか。予算編成に必要なことは、その年の重要課題をピックアップし、スクラップアンドビルドの考えを持って行っていくべきだ。一律カットや、走りながら考えるような、場当たり的な予算編成であってはならない。

24年度予算

予算の特色は

町長 目玉事業は観光振興

榎並谷町長 予算は、義務的経費と将来への備えや現存の生活基盤の保障等にかかる投資的経費とで編成される。その中で、財源となるものは、2割の税収とそれにプラスされる国、県の援助8割で賄われている。

24年度予算の特色は、4億円の霧生関公園の事業休止、旧中学校の整備を最小限で行うことだ。

将来に向けた観光振興として、牧野富太郎生誕150年事業を含めた上町整備事業に、1億2千万円を計上していることが24年度の目玉事業である。

岡林総務課長 24年度予算における代表的な事業は防災関係で、木造住宅の耐震化補助、黒岩中学校の耐震補強設計、防災行政無線の難聴世帯用の戸別受信機設置。

インフラ整備では、斗賀野の町営住宅用地の購入。環境対策では、住宅用の太陽光発電システムの補助、役場庁舎のLED照明設置工事。



「酒蔵ロードひなまつり」でにぎわう上町

次期町長選挙

出馬、どう考えているか

町長 やめる、やめないは町民に失礼

町長は、町長選出馬について、今、どのように考えているか。榎並谷町長 選挙で選んでいただいた公人の立場であり、言動には責任を持たなければならぬ。与えられた任期があり、それを全うする、全力を注入するのが、私の考えだ。今、やめる、やめないという話は町民の皆さんに失礼だと思っている。



町づくりは町民が主人公



今橋 寿子 議員

牧野富太郎生誕150年

単年度計画、示せ

教育長 年間を通じ、記念行事開催

川井教育長 年間を通じて牧野富太郎博士の記念行事を開催し、町内外の方たちに牧野博士に触れてもらう機会を提供する。

25年度以降も、牧野博士の副読本、佐川の歴史文化を活用したふるさと学習や植物標本教室などに取り組んでいきたい。

西森副町長 具体的な取り組みとして、カレンダーの配布事業からスタートを切り、4月24日から「牧野富太郎博士とふるさと佐川展」を地場産センターで行う。

青山文庫では9月8日から「日本植物学の父、牧野富太郎」と題した特別展示を計画している。

また、記念事業として、企画立案を出した住民グループ、企業に50万円を限度として補助する。

牧野富太郎博士生誕150年行事の取り組みは、1年前から取り組む価値のあるものだ。遅れた分、それだけの十分な検討もされていると思われるが、単年度計画と将来へ向けての取り組みを示せ。



3.11に行われた「牧野富太郎の聖地を歩く」

公金請求権

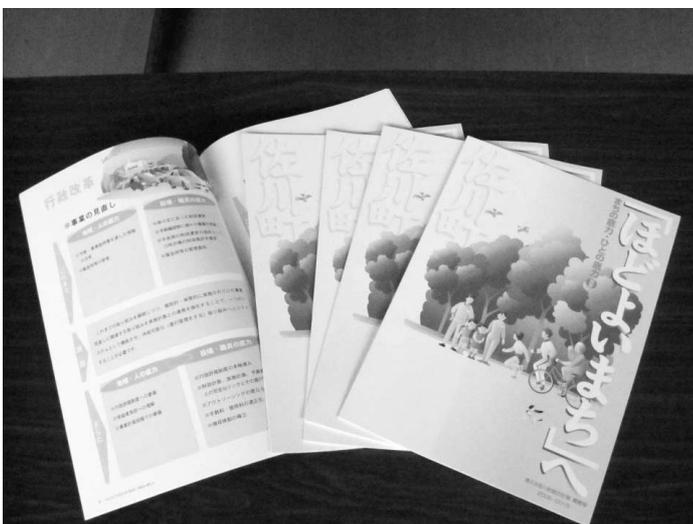
再発防止策、説明すべきだ

町長 再発しない状況つくる

1月26日、高知新聞に「佐川町6100万円請求権失う」「7年前、時効中断手続き怠る」と株投資事件について報道され、町行政のあり方に一石が投じられた。それぞれの立場の責任の取り方、今後の再発防止策の説明をすべきだ。

榎並谷町長 引継ぎなどの継続性がなかったことは行政の責任だ。再発防止に向けて、所定の手続きをきちっと行い、肝に銘じて再発しない状況をつくっていく。

事件のいきさつについては広報に記載する。



総合計画は生かしているか

24年度予算

事業評価は十分か

町長 十分でない反面がある

24年度の予算編成は、事業評価を十分に検証した上で、総合計画に沿ったものになっているか。榎並谷町長 住民の皆さんの英知を集めた総合計画であるので、忠実に遂行していくのが一つの役目だ。事業評価は十分でない反面があるが、各課の課題を十分に勘案しながら、24年度の予算を編成している。



西村 清勇 議員

市の瀬部落前の交差点では、何回となく事故が起きている。標識の設置や止まれの白線などを引くことはできないか。

交通安全対策

止まれの白線引けないか

総務課長 幅広い波線を検討

岡林総務課長 町道側に幅広い波線を引くことで、道路の優先順位が分かりやすく、運転者の注意を促す効果につながり、危険度の改善につながると考えており、検討したい。



早急な安全対策が待たれている

有害鳥獣対策

駆除の手続き、遅い

産業建設課長 簡素化を進めている

有害鳥獣の駆除については、農業にとって重く考えなくてはならない。越知町や日高村は補助金を個人に渡している。本町は猟友会に渡している。と聞いているが、申し合わせ、契約をしているのか。
また、駆除の手続きが非常に遅い。1年間いつでも駆除ができる許可が取れないか。
渡辺産業建設課長 現在は猟友会に渡しており、猟友会規則の中に50%は事務費に充てるとなっている。24年度から、事務費として町から20万円を猟友会に支払うことにし、駆除費は直接駆除者にとるようになった。
申請から許可まで1週間、それ以上かかる場合もあり、これも簡素化して、進めている。年間通じての駆除は、有害鳥獣対策協議会、関係機関などと話し検討していく。

防災無線

全戸に受信機設置を

総務課長 5年で1000機設置

今度の予算で戸別受信機を200戸つけるようになっているが対象者は。防災無線は聞こえないとの声が多く、予算はかかるが1日も早く全戸につけるべきだ。

岡林総務課長 対象者は、難聴世帯の調査に基づき、難聴世帯の希望者と自主防災組織の代表者の方を予定している。

5年計画で1000機を設置したい。

その他の質問

○ 西谷の町道のガードパイプの延長は。



難聴地区解消へ、設置始まる

一般財源投じるべきだ

町長 非常に酷だ

先日の介護保険策定委員会で、平成24年度からの3年間の保険料が750円引き上げる決定がなされた。国保税は介護保険料と合わせて徴収されており、住民にとって非常に重いものとなっている。少しでも負担を少なくするべきだ。

松本 正人 議員



多くの課題を抱えている霧生関公園（仮称）

全国の自治体では一般財源を投じて国保税の軽減をはかる自治体が増えている。本町でも実行すべきだ。
下川健康福祉課長 本町で750円のアップ分を一般財源で補うとすると年間約4千万円必要となる。
榎並谷町長 町財政は厳しく、自治体に負担軽減を求めるのは、非常に酷な状況だ。

霧生関公園

私有地、残っているが

町長 将来、町有地と交換する

霧生関公園の工事は本年度で完成する予定であった。埋め立てのための、波介川の土砂の受け入れが終わったのが昨年12月だが、こうなることを知っていたか。こんな計画で本町にいいのか。
また、公園予定地には私有地が残っていると聞いているがおかしくないか。
榎並谷町長 正確な工程は、計りにくく、残土を入れてもらうよう国への要望は行っていた。国からは工事の進捗に応じて運んできていただいたと思っており、完結の予想はしにくかった。
公園予定地には私有地が残っている。残土処理を始める時に、将来、町有地と民有地を交換するという覚書を交わしている。

佐川町民第二グラウンド

行き過ぎた整備だ

町長 安全対策として必要だ

町民第二グラウンドは、昨年春に行われたソフトボール大会に間に合わせたいというような形で、整備が行われた。防護ネットも立派であり、行き過ぎた整備だ。新年度にはさらにバックネット後方に防護ネットが予定され、また、御土居川をファウルグラウンド確保のための改修が予定されている。年1回のソフトボール大会のためにこれほどの予算を使ってよいのか。

榎並谷町長 ソフトボールのためとの指摘だが、決してそれだけではなく、交流人口の増加の目的を含め、将来、多目的に使う場合に安全対策としてこれぐらいの規模は必要との認識だ。
河川改修は十分な議論が必要だが、全く必要ないということにはならない。

その他の質問

- 公金株投資事件の損害賠償請求の経緯を示せ。
- 役場前の橋の耐震化急げ。
- ソニア解散問題、責任はどのにあるか。
- 災害に強く住みよい町宣言、やるべきだ。

あれはどうなったが？

あの質問のゆくえ

No.21



念願の生活用水確保へ前進

フスポリ地区に生活用水を

(平成22年6月定例会)

四ツ白・フスポリ地区は、毎年、渇水期には入浴のために、いの、吾北へと出かける。飲料水は、他の集落からポリ容器に入れて車で運んできています。水は大切な生活用水である。何らかの方法を検討できないものか。

(片岡勝一議員)

産業建設課長 答 弁

飲料水供給施設を設計

24年度の予算に飲料水供給施設の設計費を計上。生活用水確保へ向け、飲料水供給施設の建設を予定している。

どう
なった

現地調査行う

地元の方に会い、具体的に話を聞いた。12戸中5戸は11月から2月まで、水がなく、質問通りの状況と聞いている。12戸の水源について現地調査を行い、財源等も含めて、いかなる方法がよいか具体的に検討していく。

25年度建設を計画

来年度において、用地取得ができれば、25年度建設を計画している。規模的には、尾川、黒岩と同じ3棟6戸を考えている。

どう
なった

24年度に予算を計上

25年度の建設を目指し、建設予定地の用地取得のための費用を、24年度当初予算に計上。

産業建設課長 答 弁

斗賀野地区へ町営住宅の建設を

計画は進んでいるか

(平成23年9月定例会)

22年6月定例会においての斗賀野地区町営住宅建設の質問に対する答弁は、前向きに検討するとのことであったが、計画は進んでいるのか。

(氏原義幸議員)

21年12月、22年6月定例会でも質問

佐川テニスクラブ

わがまち「人」では、この佐川のまちで元気に活躍されている方にスポットをあて紹介します。
今回は、「佐川テニスクラブ」で子どもたちなどに、テニスを教えている石元光典さんにお話を伺いました。



石元 光典 さん

「テニスを教えようと思ったきっかけは何ですか。」

ずっと前から、定年になつたらテニスの楽しさ素晴らしさを教えたいと思っていました。斗賀野の龍王公園のコートが荒れていることも、気になっていました。

「コートが、随分きれいになりましたね。」

土を入れ替えたり、ネットを張ったり大変でした。

だが、町のひろがれ地域補助金を頂き、とかの元氣村や地域の人に手伝ってもらつてできました。

「テニスの良さはどんなところですか。」

体力に合った運動で、小さな子どもから高齢者までできることですね。

「現在、何人の人に教えていますか。」

「反応や成果はどうですか。」

子ども14人、大人8人の25人に、3人のスタッフで教えています。

子どもは、「楽しい」「目標ができた」「試合で勝ちたい」、親も、「子どもが張り切っている」と。大人は「体の調子が良くなった」と言ってくれます。



真剣な指導で子どもの可能性を引き出す

「試合にも出ていますか。」

まだ、子どもだけですが高知県の小学生大会・女子シングルスで優勝。男子は準優勝しました。

「最後にこれからの抱負をお聞かせください。」

多くの人にテニスを楽しんでもらい、龍王公園から毎日歓声上がるようになればいいですね。



「早くも成果が現れて良いですね。苦労はありませんか。」

私は好きでやっているので少し仲間もいますので苦労はないですが、子どもが中学生になって本格的にやろうとしてもコートが少なく十分な練習ができないことです。

霧生関にコートができると聞いて喜んでいました。

ありがとうございます。子どもたちには健康やかに、大人は健康で楽しく過ごしてもらいたいと話す石本さん。これからもお元気で頑張ってください。ご活躍を期待しています。

あなたの周りに、人知れず「佐川のまち」の元氣のために活躍されている「人」をぜひ、ご紹介ください。

（ご連絡は議会事務局まで）

♡佐川に恋して♡

佐川町へのラブレター

■佐川町のどんなところが好きですか。

佐川に来て4年目で、子どもが発表会をしたりサッカーをしたり、良い施設があつていいですね。

■この仕事を選んだ理由は。

幼稚園の頃から幼稚園の先生になりたいと思っていました。

子どもが好きでしたので、保育士になって良かったと思っています。

■仕事は楽しいですか。

子どもの笑顔に毎日会えて、こちらも楽しいです。そして、日に日に成長

していく姿を身近に感じられるのがいいです。

■これからの夢はなんですか。

まだまだ勉強不足です。もっともっと成長して愛される保育士になりたいです。

■町や議会に望むことはありますか。

子どもたちのためになることをやってほしいですね。きっと佐川のためになると思います。

大好きな子どもに囲まれ、好きな仕事ができる充実感にあふれた、えりさんでした。



たかはし 高橋 えり さん

地域おこし協力隊

川崎 倫 さん



自分の暮らしも大切に「捨てる」から「つくる」にシフト

高知市出身の倫さんですが、佐川町の印象は。

農業が活発。そして、地産地消が積極的に行われていて、地域内の経済循環が豊かだなあ、と感じました。人が温かいところも素敵です。

協力隊員としての仕事は。

「黒岩じりし」さんと一緒に活動しています。皆さんはもちろんご存知ですよね。「はちきんの店」で、黒岩地域の農産物、地乳を使ったプリンやギモーブ(フランスのマシ



ユマロ)などを販売しています。黒岩をはじめ、佐川町を全国にPRしつつ、将来は佐川町に新たな産業を生み出し雇用を創出し、地域活性を目標にして取り組んでいます。

これからの抱負は。

「黒岩じりし」さん、地域の方々、役場の方々の間をコーディネートする役割を担い、地域を「生かす」存在になりたいと思います。人も自然も動物も「イキイキしてる」そんな町にしたいですね。そんな佐川町の魅力にひかれて県外からの移住者も増えてくるとうれしいですね。

議会の活性化に向けて始動

—住民の信頼に応えられる議会へ—



昨年、9月27日・28日にかけて、議会活性化と議会改革へ向けての研修を目的に、奈良県平群町と京都府大山崎町を訪問した。
その視察研修を終えて、昨年12月8日に議員協議会を開き、佐川町議会の活性化に取り組むことになり、議員全員協議会の中で取り組むことが決定した。

その決定を受けて、1月26日に議員全員協議会を開催。議会活性化に向けて、具体的な内容の協議を開始し、検討項目を一つずつ検討していくことを決定した。同時に、協議会の名称を「議会活性化協議会」とし、毎月開催することも決定。
3回目の協議会で、定例会の議事運営の改善案が検討され、6月定例会から変更されることになった。

**一般質問が開会日から
4日目に変更になります。**

定例会の 開会日の変更

6月定例会より開始

金曜日	開会日
土曜日	休会
日曜日	休会
月曜日	一般質問
火曜日	一般質問
水曜日以降	議案審議

最終的な会期は議会運営委員会にて決定されるため、変更されることもあります。

**あなたが選んだ議員の
仕事ぶりを見にきませんか？**

**次の定例会は6月8日（金）午前9時開会
予定です。傍聴においでください。**

編集後記

議会だよりの編集は、事務局も交え、委員全員で取り組んでいます。

各議員から一般質問をまとめた原稿が提出されてきたものを、質問内容と答弁内容が合っているか、議事録と照合しながら、確認作業を行います。各議員の質問の趣旨を基本に、編集作業に頭を使いながら、適切にまとめていくことも編集委員の役目だと思っております。

一人でも多くの町民の皆さんに見ていただくために毎回知恵をしぼり、紙面構成などをプロジェクトでスクリーンに写しだし、写真の貼り付け、キャプションなど、皆さんに見ていただけて分かりやすい紙面づくりに努めています。編集に5日間ほどかかり、定例会後約2カ月で皆さんのお手元に届くように努めています。今回の「議会だより」見やすくできているでしょうか。

岡村

議会広報編集委員会

委員長	岡村 統正
副委員長	坂本 貞雄
委員	松浦 隆起
委員	片岡 勝一
委員	森 正彦

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。